

異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』 - 双方向4K超高精細映像伝送を用いた手話

○日時： 2013年9月19日(木) 10:15~12:30

○場所： (大阪会場) グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 北館2階 ACTIVE Studio (東京会場) 国立情報学研究所

○プログラム：

(ワークショップ1) 10:15-11:15

「手話言語法と手話コーパスの接点」

～ 地域の手話指導に必要な手話言語資源 ～

西滝 憲彦 (全日本ろうあ連盟)

大杉 豊 (筑波技術大学)

(ワークショップ2) 11:25-12:30

「手話コミュニティと超高精細映像の接点」

荒川 佳樹 (情報通信研究機構)

黒田 知宏 (京都大学)

坊農 真弓 (国立情報学研究所)

○来場者数： 55名 (大阪会場 40名、東京会場 15名)

○アンケート回収数： 33名 (大阪会場)

○テレビ放送：

本ワークショップ(大阪会場)の様子が以下の番組で

10月5日(土)8:00-8:30、10月8日(火)8:30-9:00に放送されました。

KBS京都テレビ「目で聴くテレビ 異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』-双方向4K超高精細映像伝送を用いた手話-」

○概要：

けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会と異分野融合プロジェクト(代表者:坊農真弓)は共同で、「異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』 - 双方向4K超高精細映像伝送を用いた手話 - 」を開催しました。国立情報学研究所(東京一ツ橋)と大阪うめきたをSINET/JGN-X結合ネットワークで接続し、NICTの双方向4K超高精細映像伝送システムを用いて、遠隔地間で、手話で講演・議論ができる環境を構築しました。本ワークショップは、『手話・社会・技術』に焦点をあて、手話を日常言語とする人々、手話を研究する人々、最先端の技術を作る人々が対等に、講演と活発に議論を、遠隔地間で4K映像伝送を介して行いました。今回のワークショップを通じて、4K映像伝送が持つ「奥行き感(3D感)」が、遠隔地間手話コミュニケーションの質を飛躍的に向上することができ、高い実用性を有することが実証されました。



大阪会場の様子